

一億二千万人総登山者化計画、強力推進

元気がない日本。この国の元気を取り戻すには、山登りが最良の方法と確信して、三年前からアドバルーンを上げている「一億二千万人総登山者化計画」。来年から強力に推進して行こうと考えている。

これまでだって推進はしてきていた。しかし、大風呂敷をひろげた割には、気合い不足だったかなあ、という反省はある。先月、11月にだって、「ぼくのふるさと八百名山」を3山も登っている。大分県国東半島の千燈岳、宮崎県の双石山、九重高原の黒岩山だ。どの山も、いい山であった。

可笑しかったのは、双石山(ぼろいしやま)。旅行会社の登山ツアー、「岩崎元郎さんと登る、韓国岳・高千穂峰・双石山」で、1日目は韓国岳に雨の中登った。山頂で雨が上がり、目の前には高千穂峰がくっきり見え、桜島から開門岳までも遠望できるという幸運に浴した。山頂に立ったのが午後3時、高千穂峰の左の空に虹(2時)がかかったので拍手喝采。

2日目は新日本百名山に選んだ高千穂峰に、霧島東神社から登る。登り甲斐あるいいコースで、皆さん大満足。萬を持して3日目、双石山にご案内。

可笑しかったというのは、参加者18人が誰一人として双石山を知らなかったこと。オマケの山という理解で、期待感ゼロであったこと、だ。500mちょっとの里山なのに不思議な神社あり、大岩の展望台あり、ロープにすがる急登あり、アップダウンあり、秋の可愛い花も咲いているという、変化に富んだ存在感ある山なのである。ご一緒した皆さんは感動して下さった。「鄙にもまれな美人」ではないが、こんな所にこんな魅力的な山があるんだと、感心しきり。

6月9日、環境省の仕分けで山小屋のトイレの補助が、税金の無駄遣いとしてカットされてしまった。山のECOの上さんの呼び掛けがあり、12日に数人で環境副大臣に会い、復活の陳情をした。7月22日には、「山はみんなの宝、全国集会」を新橋で開催、要望書をまとめて、環境省に提出。そんなこんな活動が効を奏して、トイレの補助は復活した。が、暫定的なものでしかない。

自然保護とかエコとかが大きな話題にはなっているが、国全体としては真に問題意識をもって、活動しているとは思えない。自然と直接触れ合っている人が、非常に少ないように思える。我が国には、手を伸ばした先に素晴らしい自然が広がっている。自然が豊かということでは、世界有数の魅力的な国なのだ。

日本の元気を取り戻すには、皆さんに山に登って貰うのが一番。山に登ってみるか、その気になって頂く「きっかけ」作りが、天命なのだ。一億二千万人総登山者化計画推進の第一歩は、身近にいい山があることを知って貰うことではないか。「みんなで登ろう、ぼくのふるさと八百名山」提案の理由は、そこにある。一億二千万人登山者化計画強力推進！